

ザイール国境で 医療活動を再開

AMDA

国際医療ボランティア団体の「AMDA」(アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)は九日、ザイールとルワンダの国境付近での医療活動を再開する、と発表した。

ザイール東部では現在、ツチ族とフツ族の部族間対

立が激化しており、現地時間の十月二十六日までに、AMDAなどNGOのメンバーや国連職員百二十八人がケニアの首都ナイロビに一時、避難していた。

AMDAによると、現地時間の八日に露岡令子医師(三セら三人がナイロビから空路でルワンダの首都キガリに入り、九日、国境へ向かうという。

今回は紛争中のため緊急的な医療活動となる。今後は、現地のUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と協力して、ルワンダ西側国境付近で難民たちの支援を行う。